超★理系留学術　アメリカ留学までの完全ガイド

第1回

日本人はなぜ アメリカの有名大学院に入れないか

青谷正妥（あおたにまさやす）
京都大学留学生センター

はじめに

京都大学大学院理学研究科1回生の僕がアメリカに渡ったのは，1979年1月2日．当時は，博士号を日本で取った人がpost-doctoral fellow（博士研究員．いわゆるポスドク）としてアメリカで修行するのが定番で，僕のような例は非常に珍しがられたのを覚えています．英語力の低さや飛行機運賃の高さもさることながら，何より“アメリカ留学”というような大それた考えをもつ人間がいなかったのです．

あれから25年，海外旅行も留学もずいぶんと身近になった，globalizationたけなわの昨今ですが，留学という言葉を学生が簡単に口にするようになったわりには，実際に学位を取るような長期留学をする人は少ないように思います．さらに，全米の留学生人口を見ると，学部生と大学院生はほぼ同数ですが，日本人の場合には学部生が圧倒的に多くなっています．とりわけ自然科学系でアメリカの大学の博士号を取る日本人の数は，アメリカにおける留学生数が最も多いインドなどの足元にも及びません．日本人大学院生の専攻分野のトップ5は1位 社会科学（23.6％），2位 ビジネス（19.0％），3位 芸術（9.7％），4位 教育（9.1％），5位 人文科学（8.1％）となっており，理系の低調ぶりが，僕にとっては非常に悲しく，もどかしいのです．

ちょうどこの原稿を書きはじめた日に大相撲の名古屋場所が始まり，横綱朝青龍が「だれも出稽古に来ないねぇ」と嘆いていました．ぜひともサイエンス先進国日本から，もう一つのサイエンス先進国アメリカに出稽古に行っていただきたいとの強い思いで，お引き受けしたのがこの連載です．アメリカ留学の裏表を，アメリカ生活20年の僕が“微に入り細を穿って”説明します．マニュアル世代・指示待ち世代といわれる方々のためには，handholding（手を取って導くような支援体制と懇切ていねいな指導）も組み込んでいきますので，ぜひご活用ください．

数学・理科音痴のアメリカ人

Yale大学のLaw School出身なのに，sineの定義を知らないDavid．「Sineならここに住んでいる」とcalculatorのkeyを屈託なく指差すのですが，もちろんそんなkeyを使ったことなどありません．Eileenは医薬の知識ゼロの大学秘書．「飲めば飲むほど効くはずよ．だって薬は体によいものでしょ？」と，手がぶるぶる震えだすほど頭痛薬を飲んでしまいます．

アメリカの高校生1000人のなかで数学の成績がトップクラスの3，4名を日本に連れてくると，こちらでは平均的な高校生になってしまうといわれるほど，アメリカ人は数学・理科音痴です．実際，有名大学でも微分や積分を一から教えるCalculusというクラスがあるのですが，多くの学生たちからimpossibleと恐れられています．

留学生大歓迎のアメリカ理系大学院

平均的なアメリカ人はダイナミックに数学や理科ができないので，アメリカの理系大学院では，学生の4割以上が留学生というのはごく普通です．できのよい理系大学院生の99％が留学生だという見方をする人もいるほどですから，外国人が来てくれなかったらアメリカの理系大学院は軒並み崩壊するに違いありません．9.11事件以来，学生visaの審査が厳し

Your complete study abroad guide

くなったこともあって，最近インドや中国からの理系大学院への留学生が減り，National Science Foundation（アメリカ科学財団）などが盛んに警鐘を鳴らしているのもうなずけます．

Digression（余談）になりますが，世界中から優秀な学生が大挙してやってきて，大学院がどんどん充実していくアメリカと，大学院生や教官の定員増という形式的な“充実”を図った結果，東大や京大でも定員割れが続出し，滑り止めに東大・京大の大学院を受ける人までいる日本との違いはあまりにも大きいですね．日本人の留学とともに，優秀な留学生の受け入れにも努力が必要です．（閑話休題）

それでも入れない…

そういうわけですから，現在の情勢は日本人にとっては強いtail wind（追い風）です．100 meter dash（100メートル走）やlong jump（走り幅跳び）と違って，大学院入学に追い風参考記録などはありません．野球のように風に乗ったホームランもlegitimate（正当）ですので，おおいに風を利用すべきなのに，それができていないのはなぜでしょうか．

Richardの場合

Stanford大学を，ほとんど全優で卒業した日本学専攻のRichardは，京都大学の大学院で研究を続けたいと考えました．その彼の不満はというと，「僕は学部の成績も標準テストの成績もよかった．日本研究の大家の推薦状ももらえるし，日本語能力試験だってトップクラスの成績で1級に合格した．なのに，どうして入学試験を受けないといけないの？」です．

「どうして入学試験に合格しないと入学できないの」とは愚問もよいところですが，ふだんの成績や推薦状で入学が決まるアメリカのsystemに慣れている彼にとっては，大まじめな問題です．人間は，自分の慣れ親しんだsystemを無意識のうちに当然のsystemとして受け入れがちですし，それが最良だとすら考えてしまう傾向がありますので，こういうRichardの発言を笑う権利は誰にもありません．しかし，だからといって彼が自分に合うように日本のsystemを変えて無試験で合格するというのは，当然不可能ですよね．

一郎と健二の場合

実はRichardと同じことが，多くの日本人にも起こっているのです．アメリカの大学院に願書をだすとき，向こうのsystemに合わせて出願しなければ当然合格できないのに，日本人の“日本での常識”が邪魔をしてしまうのです．一郎君や健二君が海の向こうに願書をだすとき，海のこちら側の流儀を無意識のうちに貫いてしまうのです．アメリカにはアメリカの評価の方法や基準があります．選考に携わる人の好みだって，日本とは違うでしょう．そこをまず理解しなければいけません．やはり外国人がアメリカの大学院に入りたいと思ったら，彼らの流儀に合わせる（dance to their music）のが常識でしょう．優秀な日本人学生が第一志望の大学院に入れない最大の理由は，アメリカのsystemを知らないこと，そして選考委員たちにアピールする術を知らないことです．

●

この連載では，アメリカの大学院に入るにはどのような書類が必要で，彼らにアピールするには何をすればよいのかを説明します．アメリカ大学院留学のためのコーチングセッションです．

ところで，留学準備は出願の1年以上前から始めるのが常識ですので，さっそく情報収集とTOEFLなどのテスト勉強に取りかかってください．Good luck!

Question

東大（日本の旧帝大）とHarvard（アメリカ私学の雄）の学部生はどちらが偉いか．

Answer **東大生の方が100倍くらい偉い．**

入学時の平均学力だけに限っていえば，Harvardの学生は東大生の足元にも及びません．その理由は，

① アメリカの名門私学は軒並み授業料が異様に高く，

② よい大学院に行けば学部はどこでもよいと考えるため，秀才がトップ校に集中しないことです．

「東大に入れたが，地元の県立大学を選んだ」というのは信じがたいですが，「成績は抜群だったが，安い地元の州立大学だよ」という田舎の秀才は普通にいます．平均では東大や京大の完勝・楽勝になるわけで，その意味でも日本の優秀な学生がアメリカの有名大学の大学院に行けないのはおかしいのです．ちなみに，お笑いコンビ「パックンマックン」のパックンは，Harvard大学の比較宗教学だそうですから，三角関数は怪しいかもしれませんね，ひょっとしたら．

Your complete study abroad guide